

市民公開講座

ゲノム情報・医療情報・ 生体試料の共有を巡って —展望と課題—

2025 **12/20** (土) 15:30-17:30

ゲノムオミクス情報を含む医療情報の利活用を促進する法律も制定され、ゲノム医療が進められようとしている。ゲノム情報や試料の重要性に鑑み、その共有や利活用の推進に関して人権の観点から配慮すべき点も含め、展望と課題を検討する。



ハイブリッド開催 (対面+Zoom)

対面: パシフィコ横浜会議センター 5F 503



無料 (要申込み)



以下のURLまたはQRコードからお申し込み下さい

https://www.entry-sys.net/form/jshg2025/jshg2025_fm7_14/



プログラム

- 15:30 挨拶・座長
徳永 勝士(日本学術会議連携会員、国立国際医療研究センタープロジェクト長)
伊藤 隆司(日本学術会議連携会員、九州大学特任教授)
- 15:35 ヒト疾患バイオバンクの成り立ちと医学・医療への貢献
後藤 雄一(国立精神・神経医療研究センター理事長補佐)
- 15:56 ゲノム情報は医療や健康管理にどのように役立ちますか？
平沢 晃(日本学術会議連携会員、岡山大学医学部教授)
- 16:17 個人情報保護法とデータ利活用
宍戸 常寿(東京大学法学部教授)
- 16:38 ゲノム(遺伝)情報の利活用における「個人の尊重」: 欧州におけるゲノム情報保護制度を例に
建石 真公子(日本学術会議連携会員、法政大学名誉教授)
- 16:59 諸外国における個人ゲノム情報利活用の現状
有田 正規(日本学術会議連携会員、国立遺伝学研究所教授)
- 17:20 総合討論 (17:30終了予定)

【主催】 日本学術会議 統合生物学委員会・基礎生物学委員会・基礎医学委員会合同「ゲノム科学分科会」
臨床医学委員会「臨床ゲノム医学分科会」

【共催】 日本人類遺伝学会

【後援】 DNA Data Bank of Japan、令和7年度厚生労働科学研究費補助金がん対策推進総合研究事業「ゲノム情報に応じたがん予防にかかる指針の策定と遺伝性腫瘍に関する医療・社会体制の整備および国民の理解と参画に関する研究」、科学研究費学術変革領域研究A「各国憲法や各国生命倫理法等の比較に基づく尊厳概念の法的分析」